

岡山県子ども・子育て会議 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和6年5月22日（水） 10：00～11：50
- 2 場所：県庁3階大会議室
- 3 出席委員名（計14名、五十音順、敬称略）
金平 美和子、神田 敏和、谷野 愛子、津嶋 悟、中山 芳一、
西村 こころ、服部 剛司、平田 国子、牧 明奈、光岡 美恵子、
三好 年江、森 昌士、横山 由佳、吉田 康文

【議事概要】

<議題>

- 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2025」（仮称）の策定について
議題2 「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」の結果（概要）について

(子ども未来課長)

資料1に基づき説明

(中国地域創造研究センター（以下「中国創研」）)

資料2及び資料3に基づき説明

○発言要旨

(委員)

県民意識調査と同様の調査をしている他の県と比べ、岡山県ならではの特徴があれば教えていただきたい。

(中国創研)

岡山県の特徴は中庸である。例えば、資料2の3ページ(2)①希望子ども数と予想子ども数の算出について、岡山県は未婚者の希望子ども数は有配偶者の希望子ども数と比べ少なくなるが、合計特殊出生率の高いある県では、未婚者の希望子ども数も有配偶者の希望子ども数と同じくらい高く、未婚者も子どもを強く希望しているといった大きな違いが見られる。

(委員)

希望子ども数が特徴的に少ない県もあるのか。

(中国創研)

具体的な都道府県名の言及は控えるが、結婚できそうにないと答えた割合が非常に高く、全般に希望子ども数が少ないところもある。岡山はこれらと比べ、真ん中ぐらいである。

(委員)

少子化、未婚化、晩婚化、これが進行するスピードを少しでも緩めていかないと日本が大変なことになるだろうと思っている。ただ、これらを問題として捉えたときと、問題の結果であると捉えたときではその対応策が変わってくるだろうと思う。

問題の結果であると考え、この30年間、賃金はほとんど上がらず、負担が増えていることが、結婚や出産を控える一因になっていると思っている。国全体の問題だが、国会の審議を聴いても、問題意識が弱いように感じる。

病児保育について、ニーズが非常に高くなっているが、岡山県は今19施設で、少ないと感じている。運営側も赤字続きで厳しい状況にあるが、市町村とも連携して公的な支援をしていただきたい。

(委員)

私には2歳の子どもがおり、本当はもう1人欲しいと思っているが、お金のこと以上に、1人目の子どもが疎かになるのではないかと気になって踏み切れないところがある。子育て支援拠点で働く中で様々な方の話を聞いていると、2人以上子どもが欲しいと思っている方の中には、自分が子育てでキャパオーバーしないか不安に思っている方が多い。困ったときに周りに助けしてくれる人がいることは重要だと思うので、地域や人とのつながりを拡大する施策が増えると嬉しい。

(委員)

結婚や子育てのタイミングで転出し、若い世代がいなくなって少子化が進んでおり、どこの市町村も子育て支援に力を入れている。生まれてくる子どもが少ないということが大きな問題なので、晩婚化や未婚化への対策も盛り込んでいく必要があると思う。

資料1の2ページ5(2)子ども・若者の社会参画・意見の反映について、市でも子どもの意見を聞く場を設ける必要があると思っているが、県の方では具体的にどのような方法ですか、参考に教えていただきたい。

(子ども未来課)

小・中・高で使われている1人1台端末を使って意見を聞けないか検討しているところで、教育現場に負担をかけないよう、関係機関と調整しながら実現できればと思っている。また、今年度は「知事と一緒に生き生きトーク」の場で、知事が子どもたちの生の声を直接聞いたりということも考えている。様々な機会を通じて子どもの意見を取り上げる方向で検討中である。

(委員)

子どもが増えていきいきと暮らせる社会にすることが理想だと思うが、まずは今問題を抱えている子どもたちが安心して暮らせるような取組を考えていけたら良いと思う。社会的養護下にある子どもたちが社会的に自立できるように支えていける仕組みや、ひとり親でもしっかり育てていけることが実感できる仕組みを支える計画になると良いと思う。

(委員)

資料3の48ページの結果を見ると、地域における人々のつながりが結婚や子ども数の希望、その実現見通しに影響を及ぼしていることがわかる。そのつながりづくりをどう具体化していくのかということが大事だ。地域子育て支援拠点や保育所、こども園、幼稚園が子育て中の親の居場所づくりやつながりづくりをしているが、小学校も含め連続的なつながりを安定して作っていくことが重要だと思う。

また、資料3の65ページに記載がある、公的支援「ファミリー・サポート・センター」について、良いサービスだと思うがなかなか利用されない。周知が行き届いていないのか、もしくは使いにくいのか、調査したり聞き取ったりしてしっかり使ってもらえるようになると良い。

(子ども未来課)

ファミリー・サポート・センターの事業主体は市町村であるが、県の方でも周知について協力していただけたらと思う。

(委員)

母親がもう1人子どもを産みたいと思えるには、保育所やこども園などの果たす役割が本当に大きいと感じている。国が誰でも通園制度を打ち出したということで、働く親も働いていない親も全ての親をしっかり助けていくというメッセージを伝えていきたい。

ファミリーサポートについて、卒園した母親同士で困ったときの相互の助け合いが多くみられた。身近なところから助け合って、つながりあっていく社会をこれからも目指していけたらと思う。

(委員)

資料2で、結婚したい人が8割以上いることに驚いた。企業も（社員の結婚や子育ての支援を）頑張っていく必要があると思うが、最近はハラスメントを意識して（結婚に関する話題は）聞けない。コミュニケーションが取りづらい世の中になっていることが、結婚が進まない一因になっているところもあるかと思う。

一企業としては、子ども手当や奨学金の支援制度を作るなどしている。企業同士で意見を出し合いながら、横のつながりで改善していけたら良いと思う。

また、子どもの意見を聞くということに関して、子どもは付度なく正直に話すので、意見をどんどん引き出してほしい。

また、ファミリーサポートについては、知ってはいても、仕事をしていてセンターに行く機会が取れず踏み出しにくい状況だ。SNSを活用して気軽に使える仕組みづくりができれば良いと思う。

(委員)

愛育委員は訪問・声掛けが一番だと思っているが、新型コロナウイルスや個人情報との関係でなかなか家庭に入れなくなった。愛育委員は（子育て中の）若い方々に声掛けをして、少しは自分の体験を話すといったことをしたら良いと思うが、愛育委員も若返っていて、仕事をしながらなかなか各戸訪問できない。私が住んでいる地域は結婚を機に都市部へ転出する人が多く、引き止めたいが、引き止めるだけの魅力がなかなか作れない。新見には公立大学があって、子どもたち・母親の援助をしてくれるので、そういう場を活かせるように声掛けしたい。

(委員)

こども大綱で「こどもまんなか」と言われ始めたが、子どものいる場で働いている身としては、社会がこどもまんなかではないと感じている。できることは何でもやろうという知事の旗振りで県が仲人事業などを行っているが、日本では結婚すれば子どもを持つ世帯が多く、少子化対策として結婚を支援するのは大事なことだ。世の中少子化が進んでいるが、子どもが生まれなければ保育園はなくなってしまう。また、保育園では働き手が少なく、人材の確保が課題だ。外国人は言葉の壁があり保育士になることが難しい。県では地域限定保育

士を増やそうとしているが、これもなかなか難しい。こどもまんなか社会を実現するために、保育所を頼りにしてもらい、保育所が元気に子育て支援ができるよう頑張っていきたい。

(委員)

「教育県岡山」の復活と耳にすることが増えたが、「福祉県岡山」も復活させ、全国に発信していただけるとありがたい。児童養護施設の出発点は岡山であり、里親、自立支援施設など、福祉の伝統を見直す良いきっかけだと思う。岡山にはそういう歴史と下地があるということのを大事にして、次の未来を考えていくという視点もあって良いのではないか。

「岡山いきいき子どもプラン2020」の53ページに記載のある「岡山県社会的養育推進計画」は、「岡山いきいき子どもプラン」と並行で進めてきたもので、中間見直しの年だ。国の見直し内容には、障害児入所施設の支援や妊産婦支援について新しく項目が入ってきており、次期プランとも密接に関係していると思うので、十分連携を図りながらプランを策定していきたいと思う。今、岡山では虐待を受けて家で暮らせなくなった子どもが300~400人児童養護施設におり、加えて数百人の子どもが里親の下で暮らしている。そういった現状を今一度認識していただくとともに、この5年間で現場は惨憺たるありさまというか、傷ついた子どもが続々と集まっており、児童養護施設の現場は年々大変になっている。こうした現場の意見も次期プラン策定に生かしていただきたい。

また、子どもの権利条約を日本が批准して30年という節目の年で、こども基本法、こども大綱といろいろ動き出したので、子どもの意見をいかにプランに反映させるかというのが大事なポイントだ。子どもと一緒に作ったと言えるぐらいの計画にできたら良い。

(委員)

子どもが2人いるが、振り返って大変だったことの一つがつわりだ。つわりは妊娠初期から始まり、しんどさも個人差が大きい。体がしんどくても仕事をしていたら有給を取って休むしかなく、1人目の子どもがいたら体がしんどくてもその子の世話をするという状況で数か月生活しなければいけない。妊娠・出産後の制度は充実してきたと思うが、妊娠初期の制度やサポートがもっとあれば良いと思うし、つわりがしんどくてちょっと子育てはとか、子どもを妊娠するのはと思っている方もいるぐらいしんどいものだという事をもっともっと知ってほしい。

2人目を妊娠した時に、保育園にもどこにも行っていない小さな子がいる

と、預け先がない。産前産後に保育園に入所できる制度もあるが、いっばいで使えないし、一時預かり制度も働いている人が使っていて使えない。働いていなくてもしんどいから子どもを見てほしい時に、受け入れてもらえないという状況だ。しんどい時やリフレッシュしたい時など、いろいろあると思うので、そこで預かってくれるところがあると助かるし、母親自身の健康状態や精神状態、夫婦の関係にも反映してくるので、そういった点も考えてほしい。

(委員)

PTA 自体の形が変わったり、共働き世帯が増えて活動の仕方を工夫したりと変わる中でも、つながれる場所を残しておくというのが大事だ。併せてコミュニティスクールや学校運営協議会にも関わっているが、同様に地域のつながりが大事だと感じている。65 歳が定年になり、70 歳くらいまで働いているのが当たり前になってくる状況で、どうやって地域のつながりや協力していただける人を確保していくのかということが課題になってくると感じている。

また、自己効力感や自己肯定感が大切だというのが調査結果から見えていたので、今後も夢育の活動を継続していただき、小・中・高校生それぞれ人生設計を考える機会があると良いと思う。

(委員)

こどもまんなかとは、子どもに一番良いこと、ということだ。様々な制度があるが、それが子どもにとって良いことなのか、保護者にとって良いことなのかを考え、真にこどもまんなかになるような計画になると良いと思っている。いろいろな市町村が子ども施策に財源を割いているところである。資金が足りずできないこともあるが、今あるマンパワーを使って出来ることがないか考えていきたい。

計画作成について、国のこども大綱と県のこども計画を見て市町村がこども計画を作ることになっているが、県の動向はどのように市町村に教えていただけるのか伺いたい。

(子ども未来課)

国のこども大綱は HP で確認できる。県のこども計画については、次期子どもプランに位置付ける方向性であるが、作成を進める中で市町村にその都度情報提供するので、参考にさせていただければと思う。

(委員)

かなり多面的、多角的な視点で意見をいただけたと思う。これらの意見を

もとに計画を策定してもらい、何かあれば県の方にお伝えいただきたい。

(子ども未来課)

何点か回答させていただきたい。

病児保育について、施設が少ない背景としては、経営が難しいということがあり、病院によっては慈善的な事業としてやっただいていてところもある。県としては、県南に施設が偏っているので、市町村域を超えて共同利用できるように、美作市と西粟倉村以外は広域協定を結び、住んでいる市町村でなくても、他の市町村に空きがあれば使えるように調整をしているところだ。そうしたサービスをうまく活用できるよう、県としても工夫してまいりたい。

子どもを預ける場所が少ないということについては、子育てカレッジという取組がある。県下14の大学で、保育を目指している学生が子どもを見てくれたり、親の悩みを先生が聞いてくれたりという具合に、大学という場を活かした活動をしている。取組をもっとPRできるよう頑張っていきたい。

以上